

令和6年1月9日（火）

3学期始業式 講話

おはようございます。そして、あけましておめでとうございます。

「あけましておめでとう」という言葉は躊躇しましたが、敢えて良い歳になって欲しいと願いを込めて使いました。

年明けから、能登半島地震により、多くの方が被災され、羽田空港での日航機と海保機の衝突事故と合わせて、多くの犠牲者が出ました。謹んでご冥福をお祈りいたします。天災、人災はいつ、何時発生するかは予測ができません。特に、自然の力の前では、人間の無力さを思い知らされる事態が多々あります。しかし、そのような過酷な状況下においても、人々が助け合う姿に力をもらったり、自分にも何かできることがあると勇気づけられたりすることもあります。今回の能登半島地震では、地震発生から約124時間後、90代女性が救出されました。生存率が大幅に下がるとされる発生72時間を超えていました。救助に当たっていた医師でさえ「90代の方が生きていたとは思えない」との思いが過ったと述べていました。「生きる、頑張る」という女性の思いと「きっと大丈夫だ。何とか救い出したい」という救助者たちの強い思いとが形となって現れたのだと感じます。どんな時でも「諦めない」ことの大切さを改めて考えさせられた出来事でした。

日航機と海保機の衝突事故でも、考えさせられたことがあります。それは、「判断力」ということです。日航機は乗客、搭乗員の誰一人も犠牲にならなかったことは奇跡的だと言われていますが、その背景には、客室乗務員の適切な判断があったからだとも説明されています。客室乗務員同士で協力しながら、適切な脱出口を見出し、乗客を迅速に避難させた判断力は、常日頃からのシミュレーション訓練によるものであり、一人ひとりの意識の高さによるものだと考えられています。様々な状況に対応できる準備と意識が運命を左右するということです。

皆さんには、今回の事態を他人事として捉えるのではなく、自分にも起こり得ることと認識し、心に刻んで欲しいと思います。有事の時だけでなく、我々の日常における様々な場面で、例えば、学習に関すること、進路に関すること、人間関係に関する事など、我々が生きていくうえで必要とされる考え方だと思います。

「慌てず、焦らず、諦めず」に物事に取り組むことが、自分が進むべき道を切り開いて行ってくれるということ。そして、自分自身が判断しなければならない場面で、自分の考えで判断できるように、常に自分の身に置き換えて物事を考える意識を持つこと。この2点を今年度の皆さんの目標に付け加えてください。その継続的な取組がきっと皆さんにとって、大きな力になると信じています。

年の初めに、みなさんに伝えたいと思ったことです。

以上で終わります。